

THE RECORD

6

2001
No.499

- 不法録音物対策委員会発足
- 第1回 Techno-Legal Forum 開催
- 2000年度音楽パッケージソフトユーザー実態調査
- 統計資料－アメリカのレコード出荷統計

不法録音物対策委員会の設立について

この度、当協会を含む関係8団体は、共同で「不法録音物対策委員会」を設立しました。

1997年5月に活動を開始した「カラオケ教室不法録音物対策委員会」は、カラオケ教室を主な対象として、著作権思想の啓蒙活動を行ってきましたが、その後の技術革新などによる状況の変化に鑑み、啓蒙対象を拡大する必要性が生じたため、今回の「不法録音物対策委員会」設立となったものです。

委員会の概要は以下のとおりです。

不法録音物対策委員会

【設立】 2001年4月

【目的】

1997年5月7日に発足した「カラオケ教室不法録音物対策委員会」の4年間に亘るカラオケ教室に対する著作権思想の普及・啓蒙、改善指導・警告等活動により、カラオケ教室における不法録音物の減少という顕著な成果をあげることができました。

しかしながら、一方では録音機器の発達により誰もが容易に録音ができ、それに合わせて不法録音も幅広く行われるようになっており、今後ますます著作権思想の普及・啓蒙活動の重要性が増しています。

そこで今後は、今までのような一部の教室を対象とした活動から、音楽利用が不可欠な各種教室における不法録音まで、その対象範囲を拡大し、著作権思想の普及・啓蒙、改善指導・警告、摘発活動の支援を推進し、もって不法録音物の撲滅、知的所有権の保護、日本の音楽文化繁栄に寄与することを目的に共通の立場にある業界団体により発足されました。

【役員】

委員長 木村三郎 ((社)日本レコード協会 専務理事)
副委員長 細川英幸 ((社)日本音楽著作権協会 常務理事)

【事務局】

事務局長 丸山善光 ((社)日本レコード協会 特別業務部部长)

【啓蒙対象】

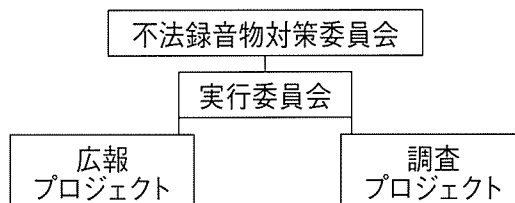
カラオケ教室や同好会・愛好会、カラオケ喫茶・スナック等、舞踊教室や民謡教室(新舞踊舎)の関係者(講師・先生や世話人、生徒など)や団体等、または地方公共団体及びその関連団体の施設責任者・担当者など

【構成団体】

(社)日本音楽著作権協会
実演家著作隣接権センター(CPRA)
├── (社)日本芸能実演家団体協議会
├── (社)日本音楽事業者協会
└── (社)音楽制作者連盟
(社)日本レコード協会
(社)音楽出版社協会
(社)日本歌手協会
日本音楽作家団体協議会
├── (社)日本作詞家協会
└── (社)日本作曲家協会 他
日本レコード商業組合
全国レコード卸同業会
(以上 主要8団体)

【組織と役割】

委員会は構成団体でなる本委員会の下に、事業計画等を具体的に検討する実行委員会(JASRAC、CPRA、RIAJで構成)を設け、更に実行委員会内に設置された広報プロジェクトと調査プロジェクトによって「不法録音物撲滅キャンペーン」を展開します。



またフリーダイヤルも設置し、情報提供や問い合わせにも対応していきます。

【不法録音フリーダイヤル】

各種音楽教室・サークルでの不法録音に関する情報がございましたらフリーダイヤル 0120-047181

【キャッチコピー】

「みんなでなくそう不法録音物・海賊版」
「不法録音が続く限り音楽に未来はありません」

今後も啓蒙活動である集中キャンペーン「不法録音物撲滅キャンペーン」を展開し、各種音楽教室やサークルの不法録音を失くす為に、啓蒙活動を展開していきます。

第1回 Techno-Legal Forum開催・他

第1回 Techno-Legal Forum 開催

5月24日(木)、当協会会議室において、当協会テクノロジーセンター、法務部共催の「第1回 Techno-Legal Forum」が開催されました。フォーラムでは14社からセッションが行われ、50名以上の参加者による活発な意見交換が行われました。

本フォーラムは、近年のネットワークのブロードバンド化の急速な進展や、それに伴う音楽伝達の手段の変化に対応した新たな機器、媒体、サービスなどの提案に対しプレゼンテーションの場を設け、またそれらの提案について法制面からの検討を行うためにスタートしました。

またもう一つの大きな目的は、会員社にこれらの情報を広く共有していただくことです。フォーラムでは、会員社、関係会社、外部企業などからの提案を公開し、会員社がテーマを自由に選択し、参加することにより、新たな音楽伝達の姿を具現化し、また権利擁護のあり方を検討することで、音楽産業の更なる発展につながることを目的としています。

本フォーラムは毎月1回定期的に開催していく予定です。

第1回目は以下の内容で行われました。

1. 「ふぉーく堂」音楽サービス／(株)NTTドコモ
2. 携帯電話での試聴サービス
／(株)スーパーコンテンツ流通
3. DVD-Audio“4C著作権管理方式”新提案の説明
／松下電器産業(株)

なお、第2回フォーラムは6月27日(水)を予定しています。会員社には追って協会のホームページから案内されます。

洋楽著作権講座開催

当協会は、洋楽企画専門部会の企画により、5月30日(水)に第12回目の著作権講座を開催しました。この講座は会員社を対象として、年二回行われているものです。

当日は会員社より約80名の出席があり、下記の内容で講座が行われました。

記

1. 基本的著作権と音楽出版社の役割
／森下彰夫氏(株)フジシフィック音楽出版 国際部部長
イーエムアイ音楽出版(株) 取締役/制作担当
ヴァージン・ミュージック・ジャパン(株) 取締役/制作担当
2. iモード2001～現状と今後について～
／山口善輝氏(株)NTTドコモ ゲートウェイビジネス部
コンテンツ開発担当課長)

ほんと?ホント!フェア in 神戸

不正商品対策協議会(ACA、以下不正協)は、1986年に、商標関係と著作権関係団体によって設立されて以来、不正商品防止キャンペーン、アジア知的所有権シンポジウム等を通じて、知的所有権の保護・思想普及活動を行なっています。

近年、ニセブランド品などの不正商品への関心が高まる中、一般の人々が、どのくらいまで不正商品に対する意識や興味を持っているかという実態はなかなかつかめません。そこで不正協は、一般の方々を対象とし、不正商品に対する知識を深めてもらう目的で「ほんと?ホント!フェア」を毎年開催しています。

今年は、5月26日(土)、27(日)の2日間に亘り、神戸市「神戸・スペースシアター」において開催されました。今回は、「だめだめ!不正商品(ニセモノ)には気をつけて!!」をテーマに、不正商品と真正品の比較展示を行ない、それらに関連したクイズやアンケートを行い、来場者に対して不正商品に対する知識と知的所有権の大切さをアピールしました。同時に、兵庫県警察音楽隊による演奏や、関西人気タレントによるスペシャルトークなども行われ、盛況の内に終了することが出来ました。神戸港の近くに位置するファッションビルでの開催ということもあり、来場者は2日間で2万人以上となり、多くの人々に知的所有権について理解を深めていただきました。

現在、不正協には、コンピュータソフトウェア著作権協会(ACCS)、日本映像ソフト協会(JVA)、日本音楽著作権協会(JASRAC)、日本芸能実演家団体協議会(芸団協)、日本国際映画著作権協会(JIMCA)、日本商品化権協会(JAMLA)、ビジネス・ソフトウェア・アライアンス(BSA)、ユニオン・デ・ファブリカン(UFD)、そして当協会の8団体が正会員として、また、ルイ・ヴィトン・ジャパン(株)が協賛会員として参加しています。



2000年度 音楽パッケージソフトユーザー実態調査を実施

当協会調査統計部会では、平成12年度の調査事業の一環として、第15回ユーザー実態調査を昨年10月に行い、この度の調査結果を「2000年度 音楽パッケージソフトユーザー白書」として取りまとめました。

この調査は、音楽パッケージメディアの需要構造を世代間比較の視点と、トレンド分析的視点によって、総合的に把握する事を主な目的とし、東京首都圏（30km圏）に居住する満13才から55才までの男女個人（有効サンプル数800人）を対象として、昨年10月5～17日にかけて、質問紙による留置自記入法で実施しました。

以下に、今回の調査結果のハイライトとなる「CD購入枚数別に見る世代別マーケットシェアの現状」の概要を紹介いたします。

なお、この調査結果の詳細は、内部資料として会員各社に配布しました。

「CD購入枚数別に見た、性年代別人口ボリューム」トレンド比較 (タテヨコ全体計100%でみた実際のマーケット人口ボリューム)

		上段：00年 下段：99年 *単位：%		H：ヘビー (年間12枚以上購入)		M・L： ミドル・ライト (年間11枚以下購入)		N：ノン (非購入)		推定マーケット シェア★	
男性	計	49.9	50.6	12.6	9.9	24.1	23.5	13.2	17.2	59.6	
女性	計	50.1	47.7	10.5	7.4	26.7	29.6	12.9	12.4	40.3	
中学生 6.1	男性	5.7	5.7	0.6	0.8	1.7	1.7	0.8	0.4	1.5	3.0
	女性			0.6	0.4	1.9	2.1	0.5	0.3	2.0	2.3
高校生 6.0	男性	5.6	5.6	1.1	1.0	1.2	1.4	0.7	0.5	3.7	3.6
	女性			0.5	0.8	2.1	1.8	0.4	0.1	2.1	3.2
大学生 5.4	男性	5.4	5.4	1.4	1.2	1.5	1.3	0.1	0.3	7.1	6.8
	女性			0.4	0.5	1.7	1.8	0.3	0.3	2.3	3.0
20代 25.3	男性	23.8	23.8	5.3	4.7	6.7	5.9	0.7	1.5	25.3	27.0
	女性			5.6	3.1	5.0	7.1	2.0	1.5	19.4	15.8
30代 19.6	男性	20.8	20.8	1.8	1.4	5.5	5.8	2.3	3.3	9.4	9.7
	女性			1.1	0.7	6.0	6.0	2.9	3.6	5.3	5.7
40～55才 37.6	男性	38.7	38.7	2.4	0.8	7.5	7.4	8.6	11.2	12.6	8.1
	女性			2.3	1.9	10.0	10.8	6.8	6.6	9.2	12.0

*ベース：全体(n=800)：購入枚数は「アルバム+シングル」合計

注：少数第2位以下を四捨五入している為、合計が100%+-になっていますが数値に問題はありません。

★推定マーケットシェアの算出方法★

性・年代別のアルバム・シングル年間平均購入枚数(中古盤・輸入盤・インディーズ盤などを含む)をそれぞれ「シングル=1000円」

「アルバム=3000円」として金額ベースでの総計を出し、そこから各性・年代それぞれの購入金額の全体に対する比率を算出しました。

マーケット全体を見た場合、昨年同様音楽ソフト需要をリードするのは20代社会人(44.7%)となりました。

学生層は合計で18.7%と昨年の21.9%から縮小傾向が見られます。中でも中学生のシェアの落ち込み(5.3%→3.5%)が目立ちます。少子化と言っても、実際の人口自体にまだ大きな変化はないので、ここが活性化の一つのポイントと言えるでしょう。

30代は微減程度、40歳～55歳の層は昨年の20.1%から21.8%と伸長を見せました。「中高年マーケット」の需要喚起は少しずつ進んでいると見られます。

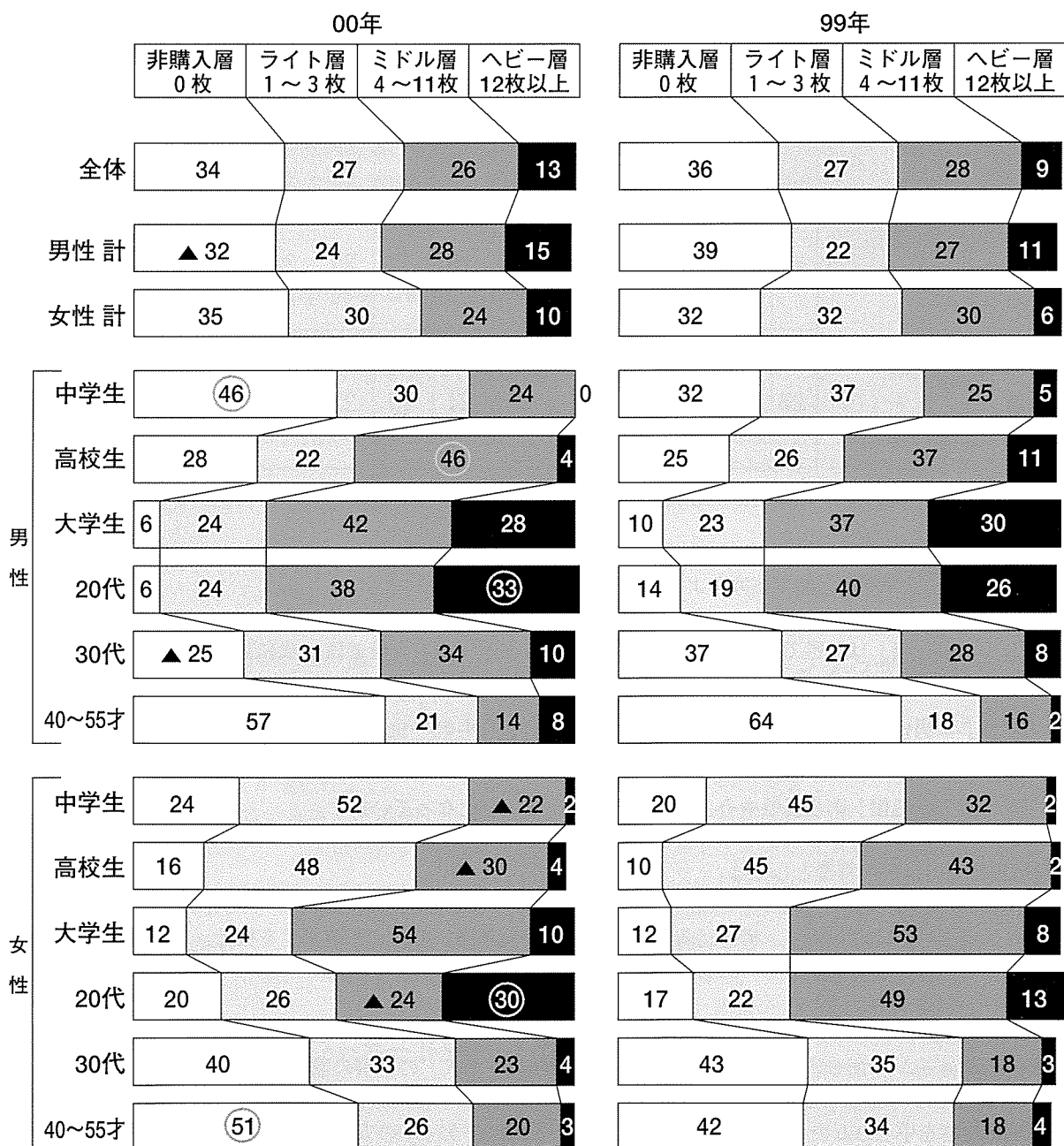
CD購入枚数別に見るマーケットの現状
(アルバム購入枚数別～性年代別・トレンド比較)

ここでは、昨年から本年へのマーケット構造の推移を年間の性・年代別/CDアルバム購入枚数別で見えていきます。全体的には大きな変化は見られませんが、男女別に見た場合、

- ①男性では非購入層が39%→32%と減少傾向だが、女性では32%→35%と微増している。
- ②男女ともにヘビー層が微増傾向である。

などの点がうかがえます。

とくに男女とも20代ヘビー層の増加が明確で、マーケットへの貢献ぶりがうかがえます。



*単位：％ ベース：全数 (n=800) ○は昨年より明らかに増加・▲は明らかに減少した数値

注：％を正数表記 (小数点以下四捨五入) している為、合計が100%+-の箇所がありますが数値に問題はありません。

ベスト盤／コンピレーション盤／名盤・旧譜購入率（過去1年内）

購入率性・年代別

	上段：2000年 下段：1999年	男 性計	女 性計	男 性						女 性						
				中学生	高校生	大学生	20代	30代	40-55歳	中学生	高校生	大学生	20代	30代	40-55歳	
				ベスト盤	42%	45	39	40	42	◎	◎	51	25	44	48	48
コンピレーション盤	11%	9	12	4	10	18	12	10	6	16	8	16	◎	26	8	4
過去の名盤	21%	26	17	28	26	◎	◎	19	20	24	22	14	24	9	14	
旧譜	19%	25	13	22	36	◎		24	10	22	22	22	20	3	9	

*ベース：全数（n=800）

◎は全体に比べ高い数値

%

通常の新譜以外の様々なタイトルについて見ていきます。

すべての商品タイプの購入経験率が昨年より上昇していることがわかります。

中でも「ベスト盤」の購入率は高く、40～55歳の層でも1/4以上の方が購入している事がわかります。

「コンピレーション盤」は男性では幅広い年代で購入経験がある一方、女性では20代に集中するという傾向が見られました。

「過去の名盤」は男性中心の反応となりました。また、30代よりも40～55歳の層の方が高反応である点は男女共通の傾向です。

「旧譜」も「過去の名盤」同様男性中心、とくに大学生がピークとなっています。

★今回調査結果の概観の特徴としては、

- ① 男性を中心にCD購入者の比率が増加傾向（CDを過去1年間に1枚も購入しなかった層が減少）である
 - ② マーケットシェアにおいて、40～55歳のいわゆる「中高年層」のシェアが学生を抜き、20代社会人に次ぐマーケットパワーを示した
- などが見られ、

★今後の音楽ソフトマーケット全体の活性化のためには、

- ① 人口ボリューム・マーケットシェアともに大きい「20代社会人」の一層の需要喚起
- ② 「中高年マーケット」のさらなる活性化
- ③ 中学生対策を中心とした「学生層」の活性化による次代マーケットの安定化がポイントになると思われる、と結んでいます。

IFPI中央理事会・他

IFPI中央理事会に富塚会長出席

IFPIの中央理事会が、5月17日、メキシコ・シティで行われました。

メキシコは中南米地域における重要な音楽市場ですが海賊版が市場の63%を占めており、IFPIは、この状況の改善に向けて、法改正のためのロビー活動と海賊版排除のための執行活動を促進する必要があることから、この場所を中央理事会の場所に選定しました。

同理事会の最重要議案は、パッケージとオン・ラインの海賊問題で、CD工場の特定手段（SIDコードシステム）の法制化、Napster上の侵害ファイル削除手続の実施等について協議されました。

日本の状況報告については、著作物の再販制度が維持されたこと、インタラクティブ配信に関する使用料が合意されたことに関心が寄せられました。

尚、IFPIの幹部は、この会議の前後に同国政府関係者とのミーティング及び記者会見を開催し、レコード製作者の権利擁護を訴えました。

DVDオーディオ追加表示事項の制定・発行

当協会技術委員会（委員長・斉藤理事）では、「DVDオーディオ追加表示事項」を4月24日付で制定・発行しました。

この「追加表示事項」は、1999年12月13日に発行した「DVDオーディオの表示に関する運用基準」の追補版として、消費者保護対策の観点から新たな表示事項を追加しています。

これは、DVDオーディオ商品の多様性から様々な商品企画が可能のため、その商品内容を分かりやすく表示することに重点を置き、消費者の店頭における商品選択時の利便性の向上と購入後の混乱を未然に防止することを目的としたものです。

DVDオーディオ商品には、この「追加表示事項」及び「DVDオーディオの表示に関する運用基準」を参考に適切な表示を行うことが望まれます。

なお、今回の「追加表示事項」で追加した項目は、次のとおりです。

- ① CD品質の表示
- ② 長時間の表示
- ③ サラウンドの表示
- ④ 複製制限表示

アーティスト音楽ギフトカード発売

日本レコード普及株式会社は、第15回日本ゴールドディスク大賞受賞記念音楽ギフトカードとして、アーティスト・オブ・ザ・イヤー（邦楽）を受賞した浜崎あゆみの「アーティストカード」を発売することを発表しました。

記念カードは、額面1,000円の音楽ギフトカード1枚と、浜崎あゆみの写真を配したプレミアムカード1枚をセットにしたもので、6月23日（土）より、全国の加盟CDショップ、楽器店などで発売されます。



当協会理事会・総会開催

当協会は、5月25日（金）、キャピトル東急「竹林の間」にて第339理事会・第111回総会を開催しました。会議では平成12年度事業報告ならびに収支決算、および下記人事が承認されました。

記

5月25日付

退任：千葉 卓男 常務理事

「日本ゴールドディスク大賞」ムック本刊行

当協会が主催している「日本ゴールドディスク大賞」は今年で15周年を迎えました。この「日本ゴールドディスク大賞」のこれまで15年の歴史をまとめたムック本が、今月、宝島社から刊行されることになりました。日本ゴールドディスク大賞総力特集として、歴代受賞アーティストの受賞シーン、喜びのコメントなどが紹介されるほか、添付のCD-ROMによって全受賞作品のデータが検索できるようになっています。

また、日本ゴールドディスク大賞委員会現委員長の飯田久彦氏、前委員長の新田和長氏へのインタビュー、第8回より司会を務めている赤坂泰彦氏へのインタビューなども盛り込み、より深く「日本ゴールドディスク大賞」を掘り下げています。

その他、ヒーリング・ミュージック、演歌・純邦楽、ダンスミュージックなどの特集が組まれており、日本音楽界の現在の動向分析も楽しめる内容になっていますのでご期待ください。

■アルバム (15作品)

【邦 楽】

●4ミリオン

Distance/宇多田ヒカル/2001.03.28 (TO)
A BEST/浜崎あゆみ/2001.03.28 (AVT)

●2ミリオン

MARVELOUS/MISIA/2001.04.25 (BMG)

●クワドラプル・プラチナ

桜の木の下/aiko/2000.03.01 (PC)
Smap Vest/SMAP/2001.03.23 (V)

●トリプル・プラチナ

インソムニア/鬼束ちひろ/2001.03.07 (TO)

●プラチナ

Together!-タンポポ・プッチ・ミニ・ゆうこ-/
中澤ゆうこ・タンポポ・プッチモニ・ミニモニ/
2001.04.18 (EP)

●ゴールド

憂愁のノクターン/フジ子・ヘミング/
2000.08.23 (V)
サングローズ/Cocco/2001.04.18 (V)

【洋 楽】

●ダブル・プラチナ

ALL FOR YOU/ジャネット・ジャクソン/
2001.04.16 (TO)

●プラチナ

~ザ・モスト・リラクシング~ フィール2/V.A./
2001.04.11 (TO)
Love Lights [ラヴ・ライツ]/エンヤ、エリック・
クラプトン、ピーター・セテラ 他/2001.04.18
(WJ)
image2/V.A./2001.04.25 (SME)

●ゴールド

ビリー・ザ・ヒッツ/ビリー・ジョエル/
2000.12.20 (SME)
サヴァイヴァー/DESTINY'S CHILD/
2001.04.25 (SME)

■シングル (12作品)

【邦 楽】

●ダブル・プラチナ

PIECES OF A DREAM/CHEMISTRY/
2001.02.15 (DF)
NEVER EVER/浜崎あゆみ/2001.03.07
(AVT)

●プラチナ

ひとり/ゴスペラーズ/2001.03.07 (SME)
Stand Up/倉木麻衣/2001.04.18 (GZ)

●ゴールド

天体観測/Bump of Chicken/2001.03.14
(TF)
YELL~エール/コブクロ/2001.03.22 (WJ)
Gang★/福山雅治/2001.03.28 (UM)
君のために僕がいる/嵐/2001.04.18 (PC)
Nē/河村隆一/2001.04.25 (V)
足跡/19 (ジューク) /2001.04.25 (V)
DEEP DEEP/小柳ゆき/2001.04.25 (WJ)
CORAZON/DA PUMP/2001.04.25 (AVT)

※AR: アンティノスレコード/AVT: エイベックス/BG: ビーグラムレコーズ/BM: ルームスレコーズ/BMG: BMGFanハウス/C: 日本コロムビア/CR: 日本クラウン/CT: カッティング・エッジ/DF: デフスターレコーズ/EP: ゼティマ/EW: イーストウエスト・ジャパン/FL: フォーライフレコード/GZ: ギザ/JE: ジャニーズ・エンタテインメント/JF: J-FRIENDS P./K: キングレコード/PAR: プライエイド・レコーズ/PC: ポニーキャニオン/PG: ポリグラム/PI: バイオニアLDC/PO: ポリドール/PS: ポリスター/PZ: ピザ・オブ・デス・レコーズ/RR: ロードランナー・ジャパン/SME: ソニー・ミュージックエンタテインメント/SN: SENHA & CO./TE: テイチクエンタテインメント/TF: トイズ・ファクトリー/TJC: 徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO: 東芝EMI/TRI: トライエム/UM: ユニバーサルミュージック/V: ビクターエンタテインメント/VAP: バップ/WJ: ワーナーミュージック・ジャパン/ZA: ツアインレコーズ

韓国、インド、音楽売上トップ20に返り咲く

韓国が、音楽売上の世界トップ20に返り咲きました。これは、1998年のアジア経済危機からの立ち直りであり、日本文化開放や、ポップミュージックの人気も大きく寄与していると思われます。

IFPIの世界音楽売上（ビルボード4/28号掲載）によると、昨年の韓国の音楽売上は3億ドル弱で、一昨年の世界順位21位から14位に上昇しました。

韓国は、1996年に5億1,660万米ドルの年間売上で12位を記録していますが、今回の14位はそれ以来の好記録です。

上昇した韓国のかわりにアルゼンチンが圏外に落ちました。不況が音楽売上にも深刻な影響を与えており、昨年の同国の売上は1億7,100万米ドルに落ち込んでいます。同国は、1997年には3億8,600万ドルの売上を記録し、世界第14位の音楽市場でした。

インドも2年振りに、20位圏外から20位内に戻ってきました。かわりに圏外に落ちたのはノルウェーですが、同国は常に20位近辺に位置し、圏内に入った落ちたりを繰り返しています。

パッケージ別の売上を見てみると、やはりCDの売上増は顕著であり、カセットとシングルの売上は減少を続けています。

しかし、アジア地区でのシングルの売上減少率は、アメリカや日本などに比べると緩やかです。一昨年と比較すると、1億2,800万米ドルから1億1,930万米ドルへ、7%の減となっていますが、アメリカでは46%減少しています。

同様の現象はヨーロッパでも見られ、イギリスの17.5%減に対し、ドイツの減少は4%に留まっています。ドイツでは、カセットの市場も確立しているようで、4%の減少に留まっています。

上位20カ国のうち、ミニディスクの売上数字を集計しているのは10カ国のみですが、その中ではイギリスが、30万巻と最多売上をあげています。

(ビルボード5月5日号)

ナプスター上の権利侵害音楽ファイル検索ツール「ソングバード」発表

国際レコード産業連盟（IFPI）は、5月9日、ナプスターのサーバー上にある権利侵害音楽ファイルを検索できる世界初のツール「ソングバード（Songbird）」の開発を発表しました。

ソングバードは、ナプスター上の侵害ファイルの検索を可能とするソフトウェアで、アメリカの若い音楽家であり且つインターネットの専門家であるトラビス・ヒル氏によって開発されました。

このソフトを使わずにナプスターのサーバーを検索した場合、1人のアーティストについては、最大でも100ファイルしかPC画面に表示されませんが、ソングバードを使ってアーティスト名やタイトルを入力すると、約90あるナプスターの全サーバーから、該当する全てのファイルを数分の内に検索し、その全てについて詳細な情報を表示します。

従って、このソフトはアーティスト、レコード会社、作詞・作曲家等が侵害ファイルの削除手続をするための情報入手に、非常に有効なツールとなります。

また、このソフトは日本のレパトリーについても、ナプスターのサーバー上にファイルが掲載されていれば、アーティスト名やタイトルをローマ字で入力して検索することができます。

今回のソフト開発はIFPIが積極的に支援したほか、世界中の音楽著作権管理団体、音楽家の団体等、音楽関係10団体が推奨しています。

ソングバードのソフトは、<http://www.iapu.org>から誰でもが無料でダウンロードできるほか、ヌーテラ（Gnutella）のようなセンター・サーバーがないサービスにおける侵害ファイルの検索が可能なソフト「メディア・エンフォース（Media Enforcer）」も開発されており、<http://www.mediaenforcer.com>から有料で入手できます。

なお、IFPI（本部：ロンドン）は、ロンドンを本部とする世界76か国、1,400のレコード会社が加盟するレコード産業の世界組織であり、私ども日本レコード協会は、その日本支部として活動しています。

今回のIFPIから発表原文については、<http://www.ifpi.org>をご参照ください。

会議メモ（主なもの）

(5月1日～5月31日)

- 5・7 不法録音物対策委員会実行委員会
- 5・9 著作権部会
- 5・10 公衆送信権WG
技術委員会
- 5・11 DMI-WG

- 5・14 ビデオプロジェクト
- 5・16 業務委員会
インターネット部会
- 5・17 配信説明会
eCATS-WG
- 5・18 DMI-WG
- 5・22 60周年委員会
インターネット廃盤セールプロジェクト
- 5・23 情報システム部会

- 5・24 RIAJ21プロジェクト
需要拡大委員会
第1回 Techno-Legal Forum
- 5・25 理事会
- 5・29 業界紙懇談会
- 5・30 洋楽著作権講座
- 5・30 ビデオ部会
- 5・31 再販問題研究プロジェクト
洋楽宣伝専門部会



レコード生産実績

2001年4月度(01年4月1日～01年4月30日)

社団法人 日本レコード協会

数量：千枚・巻

単位

金額：百万円

表1. オーディオレコード

	4月実績							2001年(1月～4月)累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比		
シングル	8cm CD	邦	636	2	35	377	1	40	2,962	2	19	1,465	1	17
		洋	1	0	3	1	0	4	502	0	672	39	0	78
		計	637	2	34	378	1	39	3,464	3	22	1,504	1	17
	12cm CD	邦	9,598	28	98	7,476	16	96	33,219	25	113	25,791	14	111
		洋	50	0	51	44	0	53	399	0	127	306	0	115
		計	9,648	28	98	7,519	16	95	33,618	25	113	26,097	14	111
小計	邦	10,233	30	88	7,853	17	90	36,181	27	80	27,257	15	85	
	洋	52	0	37	45	0	41	902	1	231	345	0	109	
	計	10,285	30	88	7,897	17	89	37,082	27	81	27,601	15	85	
12cm CD アルバム	邦	16,009	47	105	27,238	60	119	69,835	52	94	120,574	65	99	
	洋	6,354	19	112	9,381	21	116	22,673	17	105	33,094	18	105	
	計	22,363	66	107	36,619	80	118	92,509	68	97	153,668	83	101	
CD 合計	邦	26,242	77	98	35,091	77	111	106,016	78	89	147,831	80	96	
	洋	6,406	19	110	9,425	21	115	23,575	17	107	33,439	18	105	
	計	32,648	96	100	44,516	97	112	129,591	96	92	181,270	98	98	
アナログ ディスク	邦	82	0	49	82	0	54	443	0	71	465	0	73	
	洋	10	0	37	12	0	28	56	0	52	70	0	40	
	計	91	0	47	94	0	48	499	0	68	534	0	66	
カセット テープ	邦	1,342	4	98	1,069	2	99	5,159	4	81	3,962	2	82	
	洋	17	0	82	10	0	71	29	0	62	21	0	55	
	計	1,359	4	98	1,080	2	99	5,188	4	81	3,983	2	82	
総合計	邦	27,666	81	98	36,242	79	110	111,618	83	88	152,257	82	96	
	洋	6,432	19	110	9,448	21	115	23,661	17	107	33,529	18	105	
	計	34,098	100	100	45,690	100	111	135,279	100	91	185,787	100	97	

表2. ビデオレコード

	4月実績						2001年(1月～4月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	2,116	54	122	5,064	47	129	9,830	60	187	22,179	50	186
LD・その他	203	5	84	339	3	72	802	5	60	1,350	3	49
テープ	1,603	41	91	5,312	50	97	5,683	35	77	20,946	47	90
合計	3,922	100	105	10,715	100	108	16,315	100	117	44,475	100	117

表3. オーディオ/ビデオ合計

	4月実績						2001年(1月～4月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	34,098	90	100	45,690	81	111	135,279	89	91	185,787	81	97
ビデオ	3,922	10	105	10,715	19	108	16,315	11	117	44,475	19	117
合計	38,021	100	100	56,405	100	110	151,594	100	93	230,262	100	101

<参考>表4. 複合型CD (CD-G、CD-I、CD-ROMなど)

	4月実績						2001年(1月～4月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
邦 盤	9,085	100	78	1,100	100	81	44,683	100	87	5,181	100	87
洋 盤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	9,085	100	78	1,100	100	81	44,683	100	87	5,181	100	87

備考 1. 本年実績は、会員会社「23社」の集計である。当会員会社が受託した非会員会社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

アメリカのレコード出荷統計

本号は、RIAA(米国レコード協会)が発表した過去10年間の統計を種類別に表とグラフで紹介します。

図1. 種類別レコード・ビデオ出荷金額の推移

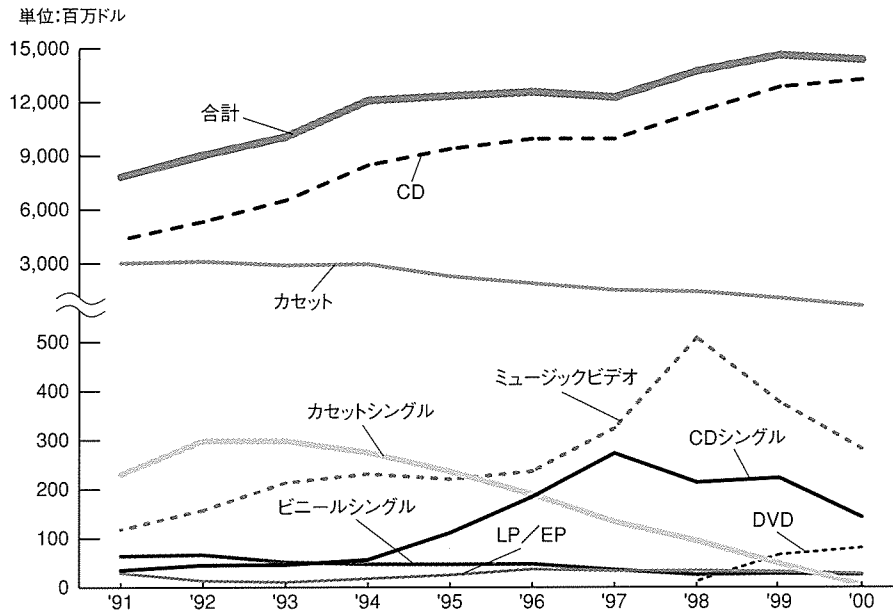


表1. 種類別レコード・ビデオ出荷の推移

種類		1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2000成長率(%)
数量 (百万枚・巻)	CD	333.3	407.5	495.4	662.1	722.9	778.9	753.1	847.0	938.9	942.5	0.4%
	CDシングル	5.7	7.3	7.8	9.3	21.5	43.2	66.7	56.0	55.9	34.2	-38.8%
	カセット	360.1	366.4	339.5	345.4	272.6	225.3	172.6	158.5	123.6	76.0	-38.5%
	カセットシングル	69.0	84.6	85.6	81.1	70.7	59.9	42.2	26.4	14.2	1.3	-90.8%
	LP/EP	4.8	2.3	1.2	1.9	2.2	2.9	2.7	3.4	2.9	2.2	-24.1%
	ビニールシングル	22.0	19.8	15.1	11.7	10.2	10.1	7.5	5.4	5.3	4.8	-9.4%
	ミュージックビデオ	6.1	7.6	11.0	11.2	12.6	16.9	18.6	27.2	19.8	18.2	-8.1%
	*DVD	-	-	-	-	-	-	-	0.5	2.5	3.3	32.0%
	合計	801.0	895.5	955.6	1,122.7	1,112.7	1,137.2	1,063.4	1,123.9	1,160.6	1,079.2	-7.0%
金額 (百万ドル)	CD	4,337.7	5,326.5	6,511.4	8,464.5	9,377.4	9,934.7	9,915.1	11,416.0	12,816.3	13,214.5	3.1%
	CDシングル	35.1	45.1	45.8	56.1	110.9	184.1	272.7	213.2	222.4	142.7	-35.8%
	カセット	3,019.6	3,116.3	2,915.8	2,976.4	2,303.6	1,905.3	1,522.7	1,419.9	1,061.6	626.0	-41.0%
	カセットシングル	230.4	298.8	298.5	274.9	236.3	189.3	133.5	94.4	48.0	4.6	-90.4%
	LP/EP	29.4	13.5	10.6	17.8	25.1	36.8	33.3	34.0	31.8	27.7	-12.9%
	ビニールシングル	63.9	66.4	51.2	47.2	46.7	47.5	35.6	25.7	27.9	26.3	-5.7%
	ミュージックビデオ	118.1	157.4	213.3	231.1	220.3	236.1	323.9	508.0	376.7	281.9	-25.2%
	*DVD	-	-	-	-	-	-	-	12.2	66.3	80.3	21.1%
	合計	7,834.2	9,024.0	10,046.6	12,068.0	12,320.3	12,533.8	12,236.8	13,711.2	14,584.7	14,323.7	-1.8%

* DVDビデオはミュージックビデオに含む。

売上数量	817.5	850.0	869.7	788.6	-9.3%
売上金額	10,785.8	12,165.4	13,048.0	12,705.0	-2.6%

サンプル盤、プロモーション盤の売買について

「サンプル」、「見本盤」等といったステッカーや刻印の表示があるCD等の録音物は、レコード会社がプロモーション等の目的で、試聴用として「貸与」しているものです。従って、そのサンプル等の所有権はレコード会社が有しているもので、そのレコード会社に無断で譲渡や売買することができません。



2001年6月号

発行人 富塚 勇

編集人 木村 三郎

発行日 2001年6月10日

発行 社団法人日本レコード協会

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル2F

TEL.03-3541-4411 (代)

FAX.03-3541-4460 (代)

URL:<http://www.jmusic.ne.jp/>